

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和6年9月分）

### 【製造業】

○製造業は、7月の鉱工業生産指数は前月比1.5%上昇となった。ヒアリングでは、8月末に発生した台風10号の影響もあり、売上は減少したが、利益率の高い部品を生産・出荷することができたため、利益は増加したとの声や、円高になっても、エネルギーや原料は高止まりの状況、利益は8月が40%減、9月以降も30%程度の減少を見込んでおり突破口が見つからないとの声が聞かれた。

○地場産業は、7月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、繊維、パルプ・紙、家具で下降した。ヒアリングでは、不況や物価高による購入意欲の低下を背景に、高価格商品の売れ行きが厳しく、利益面でも赤字が続いているとの声や、物価高、人件費高騰による値上げについて、一部の取引先から理解が得られないことから、採算が悪化し、売上、利益ともに昨年比で減少しているとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

○設備投資は、8月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲3.5%となった。ヒアリングでは、製造の合理化（オートメーション化）を目指した設備投資を計画し、準備を進めているとの声や、搬出入作業の自動化等は既存設備の改造で対応するとの声が聞かれた。

### 【個人消費】

○個人消費は、8月の販売額は、全体で前年同月比4.2%上昇となった。ヒアリングでは、来館者数が前年同月比で減少したものの、全館売上では増加したとの声や、台風10号により、来館者、売上への影響は8月末にはあったが、9月はあまり影響を受けなかった。しかし、月初に生鮮品（青果、鮮魚）ほか、商品入荷への影響があったとの声が聞かれた。

### 【観光】

○宿泊者数はインバウンド客の増加等により、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

### 【資金繰り】

○8月の制度融資実績は、金額で2ヶ月ぶりに減少となった。伴走支援型借換資金終了後は、特定の資金に需要が偏って流れているという状況はなく、満遍なく様々な資金が出ているとの声が聞かれた。

### 【雇用】

○雇用面は、8月の有効求人倍率は1.51倍と35ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、従業員の人数は昔と比べて変わっていないが女性管理職の割合は増えているとの声が聞かれた。一方で、高校からの要請があった場合を除き高卒採用は行わないとの声や、人材は不足しているが、今の受注量では人手が余っており、高度人材の育成を目指し、リスキリングを行いたい気持ちはあるが、手が回っていないとの声も聞かれた。

### 【景気動向】

7月の景気動向指数（一致指数）は前月比1.0ポイント上昇、8月の中小企業の景況感と同6.0ポイント上昇となった。